



Annual Report 2021

2021年度 事業報告書



Fairtrade Label Japan

認定NPO法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン



FAIRTRADE
JAPAN



フェアトレード・ラベル・ジャパン (FLJ) とは

地球環境と開発途上国の生産者・子ども達の生活を
守る「フェアトレード」の仕組みを運営する NGO です。

Fairtrade International（国際フェアトレード
ラベル機構）の日本組織として、フェアトレードの認
証・ライセンスや普及啓発活動を行っています。ま
た国際フェアトレード基準に基づく認証を行う日本で
唯一の機関です。

私たちは生産者や企業が「経済・社会・環境」の
3つの観点の基準を守って生産・取引していること
を監査・確認しています。

これらの基準を満たす商品には「国際フェアトレ
ード認証ラベル」が表示され、消費者の皆さんはフェア
トレード商品を安心して選ぶことができます。私
たちはこのグローバルの仕組みを運営し、市民・学
生・企業の皆さんと一緒に広げていく活動を行って
います。

国際フェアトレード認証とは

日常でコーヒーやチョコレート、バナナやコットンな
どを手軽に買うことができる代わりに、実はその原
料が生産される開発途上国では、貧困や児童労働、
環境破壊などの問題が起きている場合があります。

フェアトレードとは、人権や環境に配慮して生産
された製品を適正な価格で取引することで、「寄付
や援助」の枠を超えビジネスの構造を変えて社会
課題を解決していく活動です。

国際フェアトレード認証は、フェアトレードであるこ
とを示す第三者認証で、世界的に最も認知されてい
るサステナビリティ認証の1つです。現在世界135
カ国でフェアトレード認証商品が流通しています。

フェアトレード製品を購入することは、環境や開発
途上国の生産者・子ども達に配慮した生産を促進し、
さらに美味しくて品質の良いものの持続可能な生産
にも繋がります。



危機を迎えている今だからこそ、
「誰ひとり取り残さない」
という SDGs の根幹の理念を
胸に刻んで—



認定 NPO 法人

フェアトレード・ラベル・ジャパン

理事 堀木一男 前田京子 樽本哲
高橋周一 大井祥平 南真由美
羽生田慶介 松原稔

監事 沢田寛子 井上晃良

事務局 潮崎真惟子 中島佳織 等々力恵理
浜崎薫 北戸香那

インターン 椎名さくら 大濱里菜 北川真子
田畑乃亜 栗原明穂 米田すずらん
(2022年7月時点)



2021年度は激動する世界の中で改めてフェアトレードへの期待とその必要性が高まる年でした。

世界そして日本で「ビジネスと人権」への認識が急速に高まっています。これまで、開発途上国で起きている児童労働や強制労働は日本企業にとってはどこか他人事でした。「自社は直接問題に関わっている訳ではないから関係ない」と言ってしまう時代でした。しかしこの数年で急速に進んだ「ビジネスと人権」の潮流により、「サプライチェーン上のどこかに児童労働などがあれば、そこから調達し続けている自社にも間接的な責任がある」とする考えが広がり始めました。

これは、実は何十年にも渡ってフェアトレードが世界に発信してきたメッセージそのものでもあります。開発途上国における貧困や児童労働などの多くの課題を根本から解決するためには、世界のビジネスの歪みそのものを変えていく必要があります。だからこそフェアトレードが必要なのです。

日本でも、2020年に外務省が策定した「ビジネスと人権に関する行動計画」と2022年夏に経済産業省が発表するガイドラインも受けて、企業による人権への取り組みが本格化しています。また日本の消費者の

意識も変わってきました。SDGsの認知度は2022年には4年前の約6倍の86%にもなっています(出所:電通)。政府や産業界、そして消費者の意識までも大きく動き始めたことは、今後フェアトレードがさらに広がっていく追い風ともなっています。

一方で世界では、コロナ禍の打撃による傷が癒えぬままに、ウクライナ軍事侵攻や気候変動の影響の深刻化など、世界を揺るがす危機を知らせる報道が絶えません。こうした影響は、燃料価格の上昇による肥料代や輸送費の上昇等により、開発途上国の農家さんや子ども達の生活にも大きな影響をもたらしています。危機を迎えている今だからこそ、「誰ひとり取り残さない」というSDGsの根幹の理念を胸に刻み、一層活動を広げて参りたいと思います。

これまで、そしてこれからもフェアトレードの意義を信じて活動や応援を続けてくださる皆さまに心からの感謝と敬意を表して。

認定NPO法人
フェアトレード・ラベル・ジャパン
事務局長 潮崎 真惟子





Impact Stories





Photo: Fairtrade Canada / Juan Nicolás Becerra Manrique

I remember the times of conflict and thanks the association for being committed to Fairtrade and increasing the guarantees of being able to work with dignity in the countryside.



Jhon Quevedo (コロンビアのコーヒー生産者)

私はコロンビアでコーヒー農家をしています。家族の幸せを守り、子どもたちのよいお手本となれるよう、私は日々コーヒーに愛情を注いで働いています。内戦という困難のときも、尊厳を持って働ける毎日を保証してくれたフェアトレードと生産者組合に感謝しています。

そして子どもたちの世代が豊かで平和な未来を過ごせるように願っています。私の農園では、農薬は使わずに100%有機栽培によりコーヒーを作っています。高地で栽培した私たちのコーヒーは高品質でとても美味しいのです。



Photo: Mohamed Aly Diabate / Fairtrade / Fairpicture

This initiative has made a big difference in the lives of the people. I say thank you to the buyers of Fairtrade cocoa.



Sankara Azéta (コートジボワールのカカオ農家)

フェアトレードの支援を受け、私の村にはリーダーシップスクールが設立されました。私自身もトレーニングを受け、今はそのアンバサダーを務めています。私の故郷であるブルキナファソのことわざで、「無知は病気、無知は毒」という言葉があります。スクールのおかげで、私は今、自分の未来について責任を持ち考えてゆくことができます。またフェアトレード・プレミアムにより、村には学校と井戸

のポンプが出来ました。これまで子ども達は遠くの学校に行くために何 km も歩かなければならず、通学は困難でした。村に学校が出来たおかげで、子ども達は学校に行くことができます。また井戸のポンプのおかげで子ども達や村の人々が綺麗な水を飲むことが出来ます。人々の生活は本当に大きく変わったのです。フェアトレードカカオを買ってくれる全ての人に心から感謝しています。

Now my children go with everything they need, and they're doing better in school. I'm very proud and satisfied with the Fairtrade premium.



Photo: Fairtrade / José Garcia

Verónica Altagracia de la Rosa (ドミニカ共和国のフルーツ農園スタッフ)

私は 2 人の男の子のシングルマザーです。フェアトレードの仕組みに参加する以前は、息子たちが学校で必要なものを買うには私の収入では不足してしまい、学用品を揃えることが出来ませんでした。私の勤めるフルーツ農園では、フェアトレード・プレミアムにより、スタッフの子ども達に学用品を提供するプロジェク

トが行われました。私はそこで物資をリクエストし、今私の子どもたちはリュック、靴、靴下、ノート、鉛筆、ペン、消しゴムを手にする事ができます。必要なものがすべて揃うようになったことで、彼らの学校での成績も良くなりました。私はフェアトレード・プレミアムについてとても嬉しく、素晴らしいものだと思います。

活動状況のサマリーと展望

活動状況のサマリー

2021年度より新事務局長体制のもと、事務局体制も強化して新しい戦略のもとで始動した一年でした。理事会をはじめ、プロボノやインターン生、支援者の皆さまとの関係構築や連携促進など、フェアトレードの普及拡大を実現していくための組織基盤の強化に注力しました。キャンペーン等活動の幅を広げ、さらなるフェアトレードの普及拡大を実現することができました。

1. ライセンス事業

営業ツール提供等の販促支援、分科会などによる組織間連携の促進や個別企業へのアプローチ等を通じて、認証製品の販路拡大や認証取得組織数の増加に繋げることができました。

2. 認証事業

かねてより準備してきたライセンス事業との分離、監査体制の強化、認証一時停止・認証取消事業者名の公開などに取り組み、認証事業の客観性・透明性をさらに大きく強化することができました。

3. 普及啓発・アドボカシー事業

過去最大規模で開催したフェアトレード月間キャンペーンをはじめ、広報活動を大幅に強化し、フェアトレードの認知拡大に繋げることができました。また、人権課題への取組みが急務とされるカカオとコットンに特化して、関連業界への問題提起などにも取り組みました。

今後の展望

産業界全体で加速するサステナビリティへの取組みに加え、教育界でもSDGs教育が浸透しており、今後ますますエシカル消費の拡大が見込まれています。人権や環境上の課題を解決するだけでなく、人びとが安心して未来を描いていける世界の実現において、フェアトレードが果たす役割はますます重要となっています。特に社会的影響力のある大手企業の巻き込みを戦略的に取り組んでいくとともに、業界ルールや政策などにもフェアトレードが組み入れられていくよう、さらに取組みを強化して参ります。

[写真] 虫除け効果のある木の葉を集め有機虫除け剤を作るインドのコットン農家たち



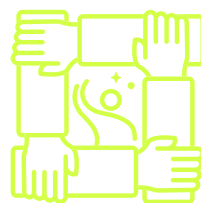
Photo: Ranita Roy

フェアトレードのインパクト



More than
1.9 Million
Farmers & Workers

世界 190 万人以上の
生産者・労働者が参加

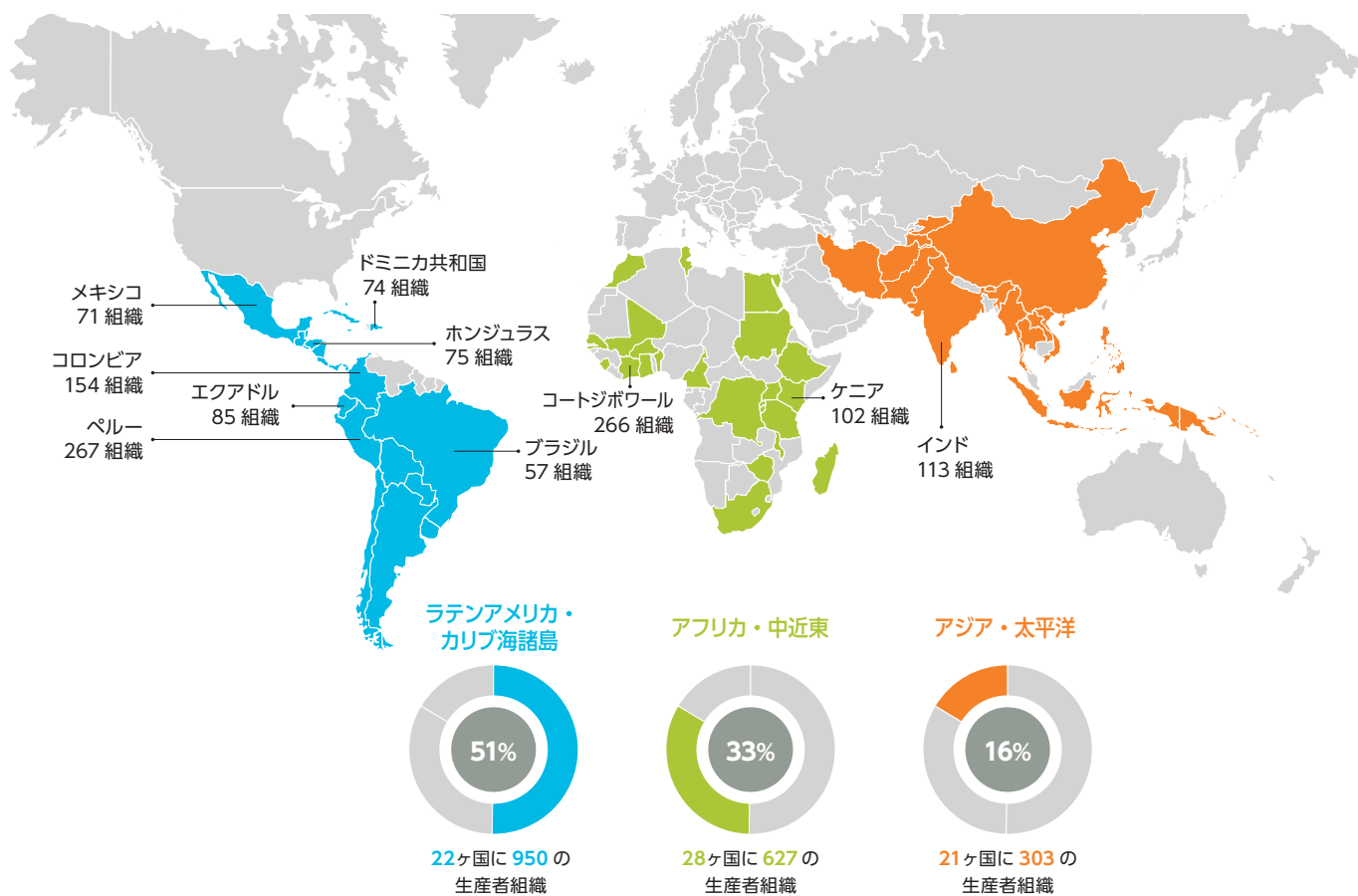


1,880 Fairtrade certified
producer organizations in
71 Countries

世界 71 か国の
1,880 の生産者組織が参加

フェアトレード参加生産者組織の分布 (2020 年)

(参加生産者組織の多い国トップ 10 を国名表記)



2020 年フェアトレードプレミアム総額と使途



Fairtrade Premium
€191 Million

フェアトレード プレミアムの総額は
232.6 億円

労働者雇用組織^{*1} は、
教育、医療、住宅および金融サービスに
フェアトレードプレミアムの

80% を投資



※ 1...紅茶やバナナ等のプランテーション

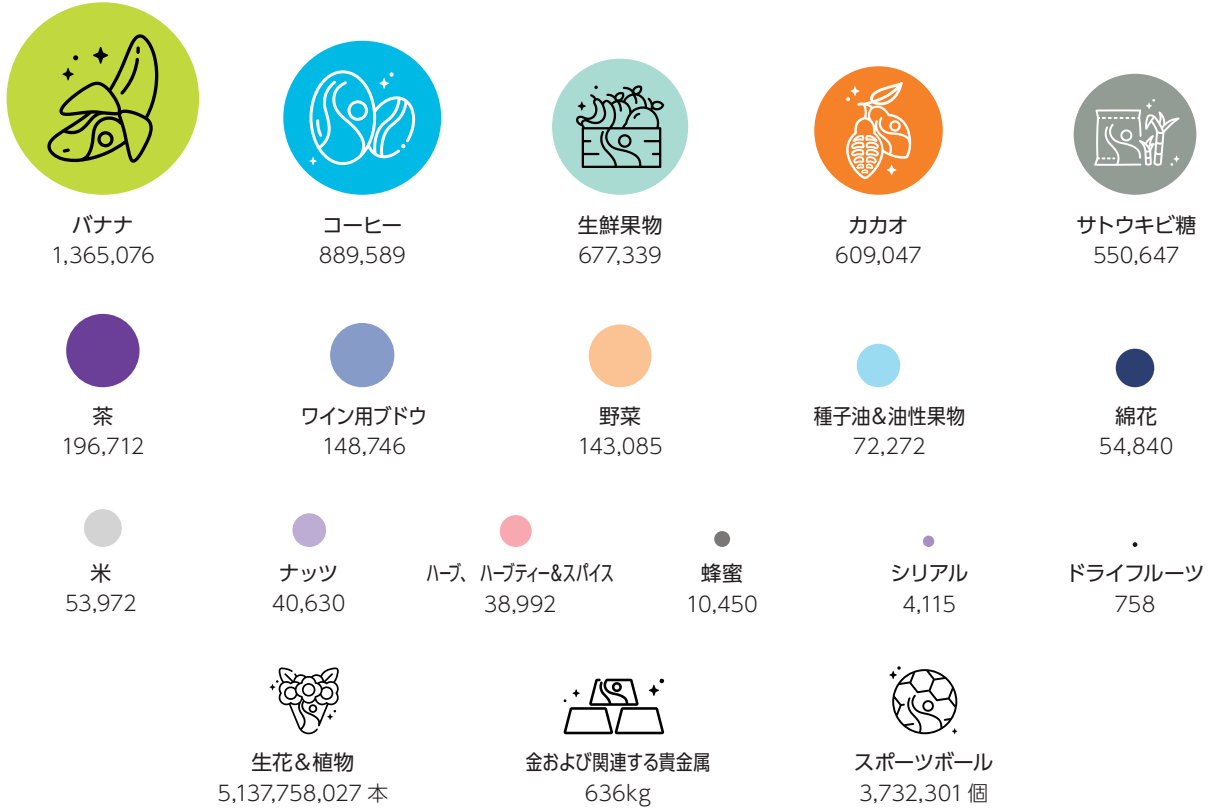
小規模生産者組合^{*2} は、
農業投資などの農家向けサービスに
フェアトレードプレミアムの

48% を投資

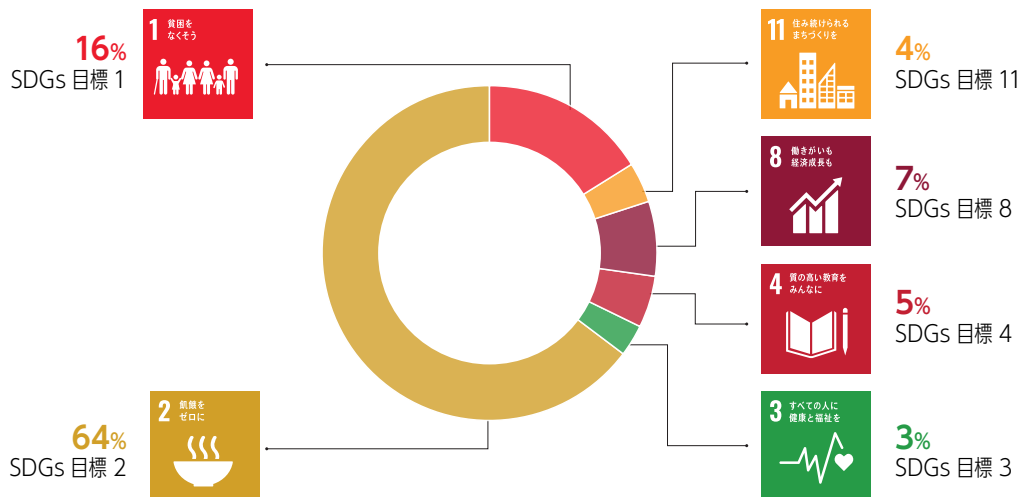
※ 2...コーヒーやカカオ等の小規模農家の集まり

活動状況のサマリーと展望

2020年 フェアトレード認証産品生産量 (単位: トン * 別単位使用箇所以外)



フェアトレードプレミアムの使途: 国連の持続可能な開発目標 (SDGs) カテゴリーによる分類



フェアトレードプレミアムの使途を SDGs のゴールで分類すると、大きな割合を占めるのは目標 2「飢餓をゼロに」です。これに含まれるのは、小規模農家のために生産者組合がプレミアムで購入した農業機器、肥料、倉庫施設、および組合活動強化資金として使用した活動などです。国連の目標 2 の定

義 (小規模農家の農業生産性の向上や所得向上支援を含む) に基づいています。その他にも、目標 1「貧困をなくそう」や目標 4「質の高い教育をみんなに」、目標 8「働きがいも経済成長も」などの達成に寄与する活動にもフェアトレードプレミアムが多く使われています。

※数字は四捨五入されている為、合計は 100% になっていません。※本グラフはフェアトレードプレミアムの使途を、SDGs (国連の持続可能な開発目標) における 17 の目標で分類したものです。詳細: www.fairtrade.net/impact/fairtrade-premium-spending-by-sdg

数字で見る日本のフェアトレードマーケット

〈市場データ1〉 国内市場規模



Retail Sales (Japan)
15.8 Billion yen

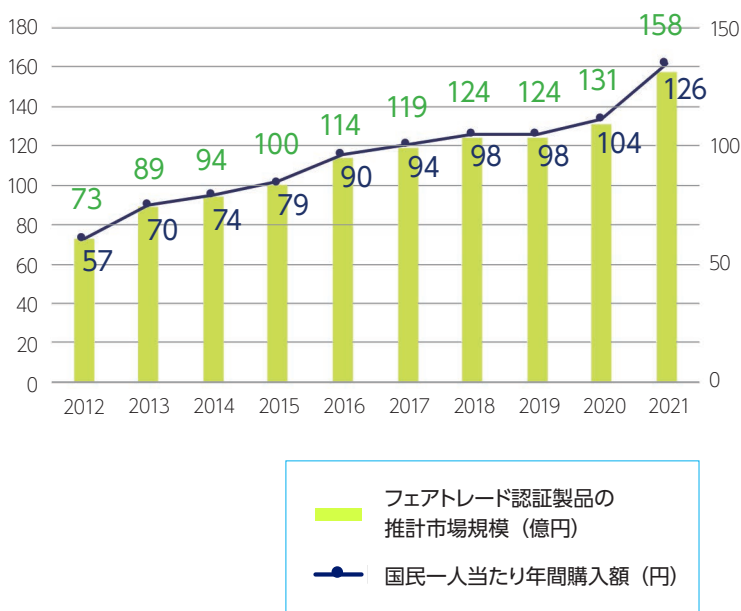
フェアトレード市場規模
158 億円



Participants (Japan)
243 organizations

フェアトレード認証
参加組織数 243 件

● フェアトレード認証製品推計市場規模と 国民一人当たりの年間購入額推移



■ 概況

コロナ禍を経た家庭用フェアトレードコーヒーの売上拡大（フェアトレードコーヒー市場は前年比+21%）や、フェアトレードチョコレートの販売増加（前年比+10%）により、市場規模は前年比約120%の158億円となりました。特に小売主要大手各社はサステナビリティ戦略に力を入れ、プライベートブランドでのフェアトレード商品化や品揃えの拡充を大きく加速させました。過去に欧米では小売大手のフェアトレード拡充を契機に市場が一気に拡大した経緯もあり、日本でも市場成長への期待が高まっています。

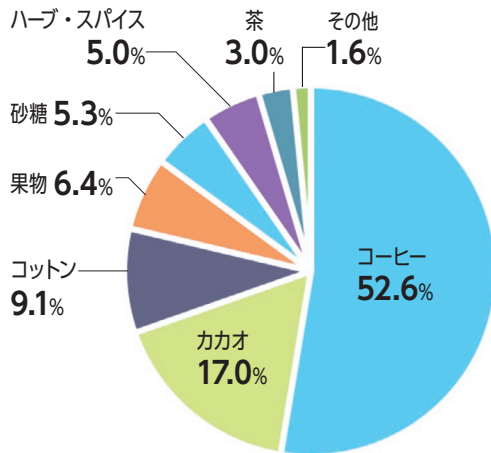
〈直近のフェアトレード市場規模と認証参加組織の推移〉

	2019年度	2020年度	2021年度
市場規模 (千円)	12,413,406	13,130,349	15,777,611
市場規模 前年比	99.8%	105.8%	120.2%
認証参加組織数*	217	221	243
認証参加組織数 前年比	102.4%	101.8%	110.0%

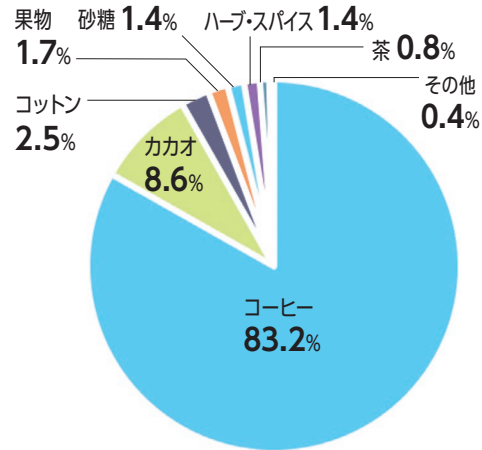
* FLJ 認証組織（輸入、製造、卸、ライセンス）、FLOCERT 認証組織、製造受託組織、海外完成品輸入組織を含む

〈市場データ 2〉 本年度のライセンス料及び市場規模の製品別割合

● ライセンス料に占める各製品の割合



● 市場規模に占める各製品の割合 (外食産業を加味)



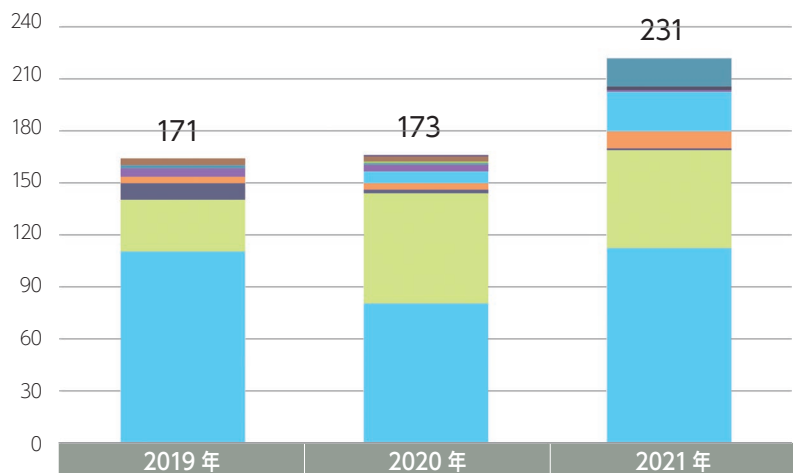
左図はライセンス料に占める各製品の割合であり、FLJ 収入源の各製品への依存度を示し、右図は外食産業での提供価格を加味した実際の国内消費金額の内訳であり市場規模を示します。

〈市場データ 3〉 新規認証製品 承認数

● 新規認証製品 承認数

右図は日本において新規に承認された認証製品数を表します。実際には海外で承認された製品も含めより多くの製品が日本市場に流通しています。

[参考] Product Finder への掲載製品数:
1,497 点 (2022 年 5 月時点)



製品	2019 年	2020 年	2021 年
蜂蜜		1	
茶			17
化粧品類	4	3	
バナナ			2
スポーツボール		1	
ドライフルーツ	2	1	
オイルシード・油脂果実	5	4	1
カカオ		7	24
砂糖	4	4	10
スパイス・ハーブ, ハーブティ	10	2	1
コーヒー	31	66	59
繊維	115	84	117

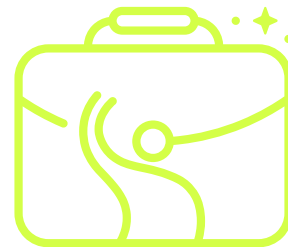
活動報告 1) ライセンス事業

1 営業・マーケティング活動

■ 大手企業との連携・新規提案

日々の選択としてフェアトレード認証製品を身近にしていくため、スーパーやコンビニなど小売店舗でのPOP掲示やフェアトレードの訴求、フェアトレード認証製品の特設棚の設置などにおいて、大手小売企業との連携や提案に力を入れて取り組んでいます。2021年度は、大手小売各社でのフェアトレード商品開発や認証製品の取扱い拡充、特設棚の設置や店頭訴求の事例を増やすことができました。

また、コーヒー、カカオ、コットンなどの主要産品においては、商社やメーカーとも連携して、新規提案にも積極的に取り組みました。その結果、新規認証取得事業者数の増加、新規発売製品数の増加など、市場拡大に繋げることができました。



■ 認証製品の販売促進・営業サポート

フェアトレード認証製品の販路拡大に繋げるため、認証事業者への各種サポートを行いました。新規営業提案の際に使えるフェアトレード説明プレゼン資料やフェアトレード訴求のための素材提供のほか、FLJのSNSアカウントで各社の認証製品や取り組みをタイムリーで紹介できるよう、認証事業者からのSNS投稿希望申請制度を導入しました。また、フェアトレード認証製品の販売促進に繋げる施策として、5月には全国横断の大型キャンペーン「ミリオンアクションキャンペーン」を実施しました。

FLJとしては、引き続き下記のような各種販促支援や連携を展開していきます。

- 大型キャンペーンの実施（5月ミリオンアクションキャンペーン）
- 営業ツール提供支援（フェアトレード提案プレゼン資料提供、素材パーツ提供）
- SNS投稿希望申請制度の導入
- 社内勉強会の実施
- 企業間連携のコーディネート

■ マーケティング分科会

フェアトレード認証事業者が一堂に会し、情報交換・ネットワーキングの場として毎年開催しているステークホルダー会合に加え、よりマーケティングに特化した学びや連携促進を目指し、マーケティング分科会をスタートさせました。今後、年3回程度の定期的集まりを通じて、マーケティング上の共通課題への議論やアイデアの共有、企業間連携などに繋げていくことを目指し、次年度から本格稼働していきます。

2 認証ラベルの商標管理

国際フェアトレード認証ラベル（国際登録番号：0806431）は、Fairtrade International (FI) によって管理されている国際登録商標です。FLJは、FIからその専用使用権を付与されている日本における唯一の法人として、FIおよびFI加盟組織と協力し、認証ラベルの信頼と認知の向上のため、適正利用のための管理徹底に努めています。

- 認証事業者からの製品認証申請・パッケージ表示の審査
- 認証事業者、メディア、行政、市民団体などからの認証ラベル使用許可申請の審査
- FIによる各種ライセンス規程への対応（FIからの監査対応、越境販売製品管理等）

活動報告 2) 認証事業 — ①

1 監査

FLJとライセンス契約・国際フェアトレード認証契約を締結しているライセンシー、輸入・製造・卸事業者、計85社の監査対象事業者のうち、2021年度監査計画に従って39件の監査を実施しました。

認証規定上、初回監査と更新監査は実地で行うこととなっていますが、2020度に引き続き2021年度も新型コロナウイルスの状況を考慮し、全てリモート監査に切り替えました。また、非通知監査はリモートでの実施が困難との判断により中止しました。

全体的に認証事業者各社はフェアトレード基準に沿って適切に取引・管理していることが監査によって確認できています。ただ、今年度は特に製造委託先への管理、監督が行き届いていないケースが目立ちました。国際フェアトレード基準は製造委託先へも適用されます。委託元となる認証事業者は日常の製造管理から、監査で指摘された不適合の是正措置の完了まで責任をもって監督することが求められます。



〈 監査実施件数 〉

	2019年度	2020年度	2021年度
初回監査	16	8	14
更新監査	16	7	16
中間監査 ^(※1)	9	6	9
非通知監査	2	0	0
合計	43	21	39

※1：中間監査には、実地で行う場合と書類で行う場合とがありますが、今年度はすべて書類で行いました。

〈 監査結果 〉

	2019年度	2020年度	2021年度
監査1件あたりの不適合項目数 平均値	0.88	1.05	0.92
不適合項目が確認されなかった事業者の割合	60%	38%	56%

初回監査の件数が多かった今年度ですが、不適合が確認されない事業者数は増加しました。近年は、国際フェアトレード基準に基づき適切な管理がしっかりとされている認証事業者と、基準への理解が不十分な認証事業者に二分されている印象を受けます。

〈 監査判定結果 〉

	2019年度	2020年度	2021年度
認証一時停止	1	0	1
認証取得・更新・継続 ^(※2)	41	20	36

※2：2021年度監査対象事業者39社の内、3件は不適合項目の是正中のため計上していません。2021年度監査対象事業者以外の認証事業者は数に含まれていません。

活動報告 2) 認証事業 — ②

2 認証事業の適正運用と強化

■ 内部監査（ISO17065 適合監査 2021年12月6日実施）

監査から認証判定までの一連の業務が、適切に滞りなく行われていることが確認されました。Fairtrade International から認証制度の透明性を高めるため認証業務とライセンス業務とを分離するよう指導されていましたが、要員を増やすことで2021年8月に対応済みであることが確認されました。

■ 監査体制の強化

認証事業者数の増加に伴い、2021年度から3名体制で監査を実施しました。今後もフェアトレード市場が拡大していくことが予想されるため、監査人を増員するとともに、監査の手法や精度が均一になるよう研修制度を充実させていきます。

■ 認証一時停止、取消事業者の公開

認証制度の透明性を保つため、フェアトレード・ラベル・ジャパンウェブサイトにて認証一時停止、取消事業者を一定期間公開することにしました。

<https://www.fairtrade-jp.org/license/authentication.php>



Photo: Ilkay Karakurt

1 キャンペーン

フェアトレード月間である5月、約10年ぶりに多くの企業・市民団体・自治体と連携し、FLJ主催による大型キャンペーン「ミリオンアクションキャンペーン」を企画開催しました。フェアトレード製品の購入やSNSでの情報発信、全国各地のイベント参加など、フェアトレードに関連するアクションをしてもらい、全国の皆様と1カ月間で100万アクションを目指すというキャンペーンです。

今までフェアトレードに関心が薄かった層にも働きかけるため、ニューヨークのデザイン事務所HI(NY)にデザイン協力を依頼。ポップなデザインが目目を引くキャンペーンビジュアルを採用し、人びとへの印象付けを狙いました。また、プレゼントが当たる懸賞キャンペーンでSNS投稿を促進したり、コーヒーやスパイスなどの食材にフォーカスしたイベントも実施するなどの工夫も凝らしました。

全国各地から、86もの企業・市民団体・行政も参加し、40以上のイベントが各地で開催され、1カ月間で目標を大きく上回る119万9,688アクションを達成することができました。

キャンペーンメインビジュアル



全国の小売店・百貨店などでキャンペーンポスター・POPが掲示され、飲食店ではフェアトレードの食材を使ったスペシャルメニューが展開されるなど、消費者が楽しみながら参加できる取組みが数多く展開され、フェアトレードの認知と購買を大きく促進することができました。

次年度も継続して、さらに多くの人たちに参加してもらえるよう、取り組んで参ります。



フェアトレードPOP 展示店舗の一例



ジェイアール名古屋タカシマヤ

ビオセボン麻布十番店

●豪華ゲストによるパネルディスカッション

「ビジネスからみるサステナブル消費の価値と拡がり」



小林 正忠氏
楽天グループ(株)
CWO

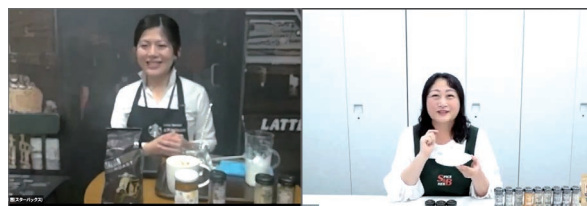
三宅 香氏
イオン(株)
環境・社会貢献担当
責任者

坂本 将之氏
ホットマン(株)
代表取締役社長

羽生田慶介氏
(株)オウルズ
コンサルティンググループ
CEO

●豪華講師による食材を楽しむ新イベント

「コーヒー×スパイス」のマリアージュ



〈講師の方〉

スターバックス コーヒー ジャパン(株)、エスビー食品(株)

ミリオンアクションキャンペーン2021の詳細報告はこちらをご覧ください。
<https://2021.fairtrade-campaign.com/news/2021017.html>

2 広報

■ メディア掲載・取材

昨年に引き続き SDGs への社会的関心の高まりも受けて、テレビや新聞、WEB サイトなどのメディアに限らず企業や自治体、学校教育の場でもフェアトレードおよびフェアトレード認証ラベルの取材・掲載件数が急増しています。



〈取材・掲載件数〉

種類	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	前年比
新聞	5	10	11	18	164%
雑誌	14	25	22	27	123%
テレビ	3	4	14	20	143%
ラジオ	2	2	1	3	300%
書籍	10	7	19	28	147%
教材	29	11	64	47	73%
web サイト	5	12	31	73	235%
動画	-	-	10	12	120%
リーフレット	22	38	35	42	120%
ポスター	-	-	8	13	163%
その他	17	32	48	77	160%
合計	107	141	263	360	137%

■ 執筆

サステナビリティや CSR をテーマとしたビジネス情報誌『オルタナ』（年 4 回発行）のコラム欄とトピックス欄の執筆を 2016 年から継続して FLJ で担当しています。フェアトレード関連の世界・国内最新動向や企業事例などを取り上げ、フェアトレードの広がりを発信しています。

■ プレスリリースの配信

国内に市場規模をプレスリリースで配信しました。最新の市場規模のほか、海外との比較など、日本の現状をメディアに発信することでより多くの方にフェアトレードを知っていただく機会を創出しました。

■ SNS の強化

若年層のフェアトレードやサステナブルなどへの関心の高まりを受け、若年層の利用者が多い SNS の運用を戦略的に行い始めました。フェアトレードへの理解促進や商品を知っていただくために、投稿頻度を上げて積極的に情報発信をした他、デザインはデザイン作成ツール Canva を使用することで、デザイン面もよりわかりやすく、一目見て受け入れやすいデザインへと改良していきました。

Sharing
what you
know

3 教育支援

■ 講演・教材提供などでの協力

SDGs 教育の広がりやメディアでの発信増加なども影響し、フェアトレードへの認知・関心が確実に高まっています。特に中高生や大学生からの問い合わせが増加しています。

教育機関からの授業依頼やセミナー・シンポジウムでの講演依頼への対応を行いつつ、よくある質問への答えをウェブサイトに掲載したり、無償提供の教材をアップデートするなどして、より多くの教育機関や個人にフェアトレードの情報をお届けできるよう取り組んでいます。



〈 教育・啓発関連協力件数 〉

	授業・講演	教材無償提供	展示物貸出・教材販売
小学校	-	21	1
中学校	2	14	-
高校	4	38	2
大学	5	19	2
公的機関	1	9	-
自治体	2	14	-
企業・市民団体ほか	16	75	7
合計	30	190	12

上記の教材無償提供数は、ウェブサイトからの教材ダウンロード申請数です。
実際の配布数は合計 537,511 部が見込まれています。(教材ダウンロード申請内容より集計)

■ 大学と企業との産学連携支援

フェアトレード認証事業者と大学との産学連携の取り組みとして、フェアトレードの商品開発や販促活動、SNS を活用した情報発信などの協働事例が増えています。

フェアトレードを含むエシカル消費に最も高い関心を持つといわれる Z 世代と協働することで、彼らの関心を商品開発や情報発信に生かすことができるとともに、学生たちにとっては、商品開発やマーケティングなど、実践しながらビジネスを学ぶことができるとして、産学連携は今後ますます注目されていくことが見込まれています。

FLJ では、フェアトレードの情報提供や組織間連携の橋渡しの面で、引き続き産学連携の各種取り組みをサポートしていきます。



3 大学 73 名の大学生が参加したプロジェクト
[Stepping Stone]

4 アドボカシー

■ 特定産品(カカオ・コットン)のアドボカシー活動

児童労働・強制労働といった人権課題のある産品の中でも、特にカカオとコットンは状況の深刻さから、取り組みが急務とされている分野です。FLJでは、この二つの産品に特化して、関連業界への問題提起とフェアトレードの訴求に取り組んでいます。

カカオについては、JICAの「開発途上国におけるサステナブル・カカオ・プラットフォーム」にFLJとして積極参画し、JICA主催シンポジウムでの講演や「カカオ産業における児童労働の撤廃」分科会への参加などを通じて、小規模カカオ農家への適正価格の支払やエンパワメントの重要性をカカオ関連企業に対して訴求しています。

またコットンについては、FLJを含む5つの団体が協働し「日本サステナブル・コットン・イニシアティブ(JSICI)」を設立。綿花生産や綿製品の製造過程における環境的・社会的課題への理解と取り組み促進を目指し、繊維関連企業、研究者、学生等を対象に、2021年度は6回連続のオンライン勉強会を実施しました。

■ 行政との連携

行政主導による消費者教育や啓発キャンペーン等への協力・連携を通じて、市民へのフェアトレード認知拡大を図るほか、行政の公共調達へのフェアトレード導入事例を増やしていけるよう、情報提供や広報支援、企業との橋渡しなど、継続的に取り組んでいます。

- 5月キャンペーン後援協力(熊本市・名古屋市・逗子市・浜松市・札幌市・いなべ市)
- 名古屋市グリーン購入ガイドラインへのフェアトレード認証の導入(2021年度～)
- 消費者庁：消費者教育ポータルサイトへの情報提供

[写真] ガーナのカカオ生産者組合 Asuadai Cocoa Farmers' Cooperative Society の農家メンバー



5 外部連携

■ 国内団体との連携・ネットワーク参加状況

理念を共有する組織・ネットワークとの連携を通じ、フェアトレードの普及推進を図るだけでなく、FLJ 単独では成し遂げられない社会的インパクトを生み出し、持続可能な社会の実現をとともに目指しています。具体的には、セミナー・イベント等の協働・連携を通じたターゲット業界や行政・市民への情報発信によって、新たなフェアトレード市場の広がりや、行政などの公共調達におけるフェアトレード調達促進などに繋がっています。

〈 連携団体・ネットワーク（抜粋） 〉

	連携団体名・ネットワーク名	ステイタス	FLJ 参加時期
1	特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター (JANIC)	正会員	2008 年度～
2	一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム (FTFJ)	正会員	2011 年度～
3	一般社団法人日本エシカル推進協議会 (JEI)	正会員・アドバイザー	2014 年度～ (法人化 2017 年度)
4	グリーン購入ネットワーク (GPN)	正会員・理事	2018 年度～
5	一般社団法人 日本スペシャルティコーヒー協会 (SCAJ)	会員	2019 年度～
6	一般社団法人 日本サステナブル・レストラン協会 (SRA)	アドバイザリーボード	2020 年 3 月～
7	開発途上国におけるサステナブル・ カカオ・プラットフォーム	会員	2020 年 3 月～
8	一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会 (JSL)	賛助会員	2020 年度～
9	学校法人アジア学院	サポーター会員	2020 年度～
10	日本サステナブル・コットン・イニシアティブ (JSCI)	設立・運営メンバー	2021 年度～

■ フェアトレードタウン・フェアトレード大学

まちぐるみ・大学ぐるみでフェアトレードを推進する「フェアトレードタウン」「フェアトレード大学」の取り組みは、市民にとって身近な単位でフェアトレードに参加できる仕組みであり、フェアトレードを普及浸透させていく上で重要な役割を果たしています。FLJ では、イベント開催連携や情報提供、企業との橋渡しなど、地域の推進グループや教育機関・地方自治体との連携・協力を進めています。

■ Fairtrade International (FI)

FI 加盟メンバーとして、グローバル方針・戦略立案の議論・決議への参加のほか、日本国内の事業者と生産者との橋渡し役を果たすため、FI メンバーの生産者ネットワーク組織との情報共有や連携を図っています。以下、主な参加会議。

- FI 総会 (6/23-24 @オンライン)
- FI メンバー CEO 月次会議出席 (毎月@オンライン)
- FI メンバー CEO フォーラム出席 (年 3 回 @ オンライン)



6 ファンドレイジング

2019年11月の継続サポーター申込制度の導入以降、毎月・毎年継続して寄付によりFLJを応援いただけるサポーター数が個人・法人ともに大きく増えています。コロナ救援基金などのクラウドファンディングを実施した2019年・2020年とは異なり、2021年は法人を通して社員の方が寄付下さるなど新しい寄付の形が増えました。

〈寄付金額・支援者数の推移〉

カテゴリ	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
寄付総額	¥729,811	¥1,958,400	¥4,154,244	212%
個人寄付金額	¥659,811	¥1,660,400	¥1,944,597	117%
個人寄付者数	168	213	324	154%
都度寄付者数	154	163	229	140%
継続寄付者数	17	57	95	167%
内訳：月額500円サポーター	4	17	27	159%
月額1,000円サポーター	3	9	10	111%
月額3,000円サポーター	-	-	2	-
年間3,000円サポーター	5	16	30	188%
年間5,000円サポーター	1	5	11	220%
年間10,000円サポーター	3	9	12	133%
年間30,000円サポーター	1	1	2	200%
年間50,000円サポーター	-	-	1	-
法人寄付金額	¥70,000	¥298,000	¥2,209,647	741%
法人寄付数	3	7	15	214%

■メルマガ配信

寄付など様々な形でフェアトレード・ラベル・ジャパンを応援して下さるサポーターの方々やフェアトレードに関心をお持ちの方々向けに、2021年2月から配信をはじめました。

内容は多岐にわたり、様々なイベントやキャンペーンのご案内や定期的なレポート、フェアトレードの最新情報などをご提供しています。現在読者登録数は約1,700名です。

今後も、読者のみなさまに、フェアトレード・ラベル・ジャパンを応援いただけるよう、より内容の充実した情報をご提供していきます。

配信済みメルマガの一例



フェアトレードの普及拡大を実現していくための組織基盤を強化するべく、業務管理体制の構築、プロボノやインターン生との業務遂行体制の構築に取り組み、活動の幅を広げることができました。対外発信力を強化することができたこともあり、外部からの人的・資金的支援を獲得することができました。

次年度は、理事会・事務局の連携をさらに強化し、寄付など様々な形でFLJを支援して下さる企業や個人サポーターを増やしていけるよう、ガバナンス強化や能力強化にも取り組み、皆さまから信頼していただける組織を作って参ります。

1. 組織体制 (2022年3月31日時点)

正会員：個人会員 21、団体会員 2

役員：理事 8名、監事 2名（平均在任期間約 7年、男女比：男性 7名・女性 3名）

事務局：常勤 5名、学生インターン 5名

アドバイザー：12名

2. 総会／理事会

① 通常総会開催

日時：2021年6月12日(土) 13:00～15:00

場所：FLJ事務所(東京都中央区日本橋富沢町11-6) / ZOOM オンライン

議題：議決事項 (第1号議案) 2020年度 事業報告書承認の件
(第2号議案) 2020年度 決算報告書承認の件
(第3号議案) 監事選出

報告事項 2021年度事業計画・予算、キャンペーン中間報告、理事選任

② 理事会開催

第1回 2021年6月4日(金) 書面決議

議題：2020年度事業報告書・決算報告書の承認、理事再任決議

第2回 2021年6月30日(水) 書面決議

議題：理事選任

第3回 2021年10月15日(金) 19:30-21:30 @ ZOOM オンライン

議題：上期事業報告、下期事業方針、修正予算決議、理事会体制

第4回 2021年12月14日(火) 18:30-20:00@FLJ事務所

議題：決裁規程・役員報酬規程の承認、次年度キャンペーン実施承認等

第5回 2022年3月10日(木) 18:30-20:30 @ ZOOM オンライン

議題：次年度事業方針・予算案承認、人事規程改定承認、アドバイザー任命等

2021年度 決算報告

貸借対照表		[税込] (単位:円) 2022年3月31日現在	
資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	5,921,220
普通預金	24,899,539	前受金	42,909
定期預金	3,200,000	預り金	412,415
現金・預金計	28,099,539	仮受金	944,578
(売上債権)		未払法人税等	915,500
売掛金	6,299,638	未払消費税	1,269,200
貸倒引当金	△ 39,308	流動負債計	9,505,822
売上債権計	6,260,330	負債合計	9,505,822
(棚卸資産)		正味財産の部	
在庫品	47,328	【正味財産】	
棚卸資産計	47,328	前期繰越正味財産額	18,179,621
(その他流動資産)		当期正味財産増減額	7,649,111
前払費用	19,183	正味財産計	25,828,732
仮払金	169,872	正味財産合計	25,828,732
その他流動資産計	189,055		
流動資産合計	34,596,252		
【固定資産】			
(有形固定資産)			
什器備品	2		
有形固定資産計	2		
(投資その他の資産)			
敷金	738,300		
投資その他の資産計	738,300		
固定資産合計	738,302		
資産合計	35,334,554	負債及び正味財産合計	35,334,554

活動計算書		[税込] (単位:円) 自2021年4月1日至2022年3月31日	
科目	金額	金額	金額
【経常収益】			
受取会費	正会員受取会費	220,000	
受取寄付金	受取寄付金	4,154,244	
	協賛金	2,311,475	6,465,719
事業収入	ライセンス料	41,836,180	
	初回認証料	1,859,000	
	年間認証料	8,373,750	
	年間ライセンス認証料	1,727,590	
	業務委託料	495,000	
	講演料	824,500	
	商品売上	35,640	
	広報・販促物売上	112,500	55,264,160
その他収益	受取利息	284	
	為替差益	126,641	
	雑収益	4,991,200	5,118,125
	経常収益計		67,068,004
【経常費用】			
事業費	人件費計	17,793,774	
(人件費)	その他経費計	40,064,417	
(その他経費)	事業費計		57,858,191
管理費	人件費計	175,870	
(人件費)	その他経費計	469,332	
(その他経費)	管理費計		645,202
	経常費用計		58,503,393
	当期経常増減額		8,564,611
	税引前当期正味財産増減額		8,564,611
	法人税、住民税及び事業税		915,500
	当期正味財産増減額		7,649,111
	前期繰越正味財産額		18,179,621
	次期繰越正味財産額		25,828,732

決算報告・監査報告の詳細はウェブサイトでご覧いただけます。

https://www.fairtrade-jp.org/about_us/accounting.php

フェアトレード認証取得事業者・ライセンサー

コーヒー

味の素 AGF 株式会社
 イシガキコーポレーション
 一般社団法人トランシード・グループ
 小川珈琲株式会社
 オリジンコーヒートレーダーズジャパン株式会社
 片岡物産株式会社
 兼松株式会社
 株式会社アートコーヒー
 株式会社ウエシマコーヒー
 株式会社ガーデンパール&コーヒージャパン
 株式会社国太楼
 株式会社神戸珈琲
 株式会社コーヒー乃川島
 株式会社トーホー
 株式会社ユニカフェ
 株式会社 ethicafe
 キーコーヒー株式会社
 キャピタル株式会社
 共栄製茶株式会社
 共栄フーズ株式会社
 齊藤コーヒー株式会社
 三本珈琲株式会社
 シーシーエスコーヒー株式会社
 スターバックス・トレーディング合同会社
 ダートコーヒー株式会社 (金沢)
 ダートコーヒー株式会社 (和歌山)
 日本ヒルスコーヒー株式会社
 ボルカフェ株式会社
 有限会社鳥取珈琲館
 有限会社ひぐち
 ワタル株式会社
 ワルツ株式会社
 POPLIFE CO. ポップライフカンパニー
 UCC 上島珈琲株式会社

カカオ

株式会社クラウン製菓
 株式会社立花商店
 株式会社フクイ
 株式会社モンロワール
 双日食料株式会社
 大東カカオ株式会社
 チョコレートデザイン株式会社
 バリーカレボージャパン株式会社
 森永製菓株式会社

茶

株式会社ノヴァ
 神戸紅茶株式会社
 ジャパン・ティー・トレーディング株式会社
 有限会社マカイバリジャパン

ゴマ

株式会社真誠
 九鬼産業株式会社

花

株式会社阪神トレーディング
 株式会社フラワーオークション ジャパン
 株式会社 Asante

コットン

一広株式会社
 株式会社飯島産業
 株式会社スバストラジャパン
 株式会社丹後
 株式会社チチカカ
 株式会社トレードワークス
 株式会社フェアトレードコットンイニシアティブ
 株式会社福市
 株式会社ローカルメゾン
 株式会社 FABRIC TOKYO
 株式会社 TTL
 倉敷紡績株式会社
 信友株式会社
 第一紡績株式会社
 田窪株式会社
 壺内タオル株式会社
 帝人フロンティア株式会社
 東洋棉花株式会社
 豊島株式会社
 豊田通商株式会社
 豊通ファッションエクスプレス株式会社
 日の出毛織株式会社
 フェアトレードカンパニー株式会社
 福助株式会社
 ホットマン株式会社
 有限会社シサム工房
 TB ユニファッション株式会社

バナナ

株式会社タナカバナナ
 株式会社ヒロインターナショナル
 株式会社マール

複数産品取り扱い企業

イオントップバリュ株式会社
 (カカオ、コーヒー、茶など)
 石光商事株式会社
 (コーヒー、茶)
 一般社団法人わかちあいプロジェクト
 (コーヒー、茶、カカオ、スパイス、蜂蜜、
 ナッツ、スポーツボールなど)
 伊藤忠商事株式会社
 (コーヒー、カカオ)
 伊藤忠食糧株式会社
 (カカオ、ゴマ)
 エスビー食品株式会社
 (スパイス・ハーブ)
 株式会社キャメル珈琲
 (コーヒー、カカオ)
 桜井食品株式会社
 (カカオ、スパイス・ハーブ)
 株式会社デコラージュ
 (茶、スパイス・ハーブ)
 株式会社マックスドナ
 (カカオ、スパイス、ハーブなど)
 株式会社 MC アグリアライアンス
 (コーヒー、カカオ)
 社会福祉法人めだかすとりいむ すいーつぱたけ
 (カカオ、砂糖)
 住商フーズ株式会社
 (コーヒー、ゴマ)
 第一コーヒー株式会社
 (コーヒー、茶)
 東京食品産業株式会社
 (スパイス・ハーブ)
 日本生活協同組合連合会
 (コーヒー、茶、コットン)
 有限会社中村植物園
 (コーヒー、茶、カカオ、スパイスなど)
 Amrita 株式会社
 (茶、スパイス・ハーブ)

謝辞／ご支援方法・事例

2021 年度も多くのご寄付、活動のサポートを頂きましたことに、心より感謝申し上げます。

〈 支援企業・団体 〉

● 寄付事例

- ・大学生開催フェアトレードカフェイベントの売上額のご寄付
- ・12月の寄付月間時に社内ファンドレイジングを募り、社員のみならず及び企業様からのご寄付
- ・フェアトレード商品を通じた啓発プロジェクトでのお取組み費用としてのご寄付
- ・企業様が実施されているポイント制度でご寄付メニューを設立しご寄付
- ・企業様設置のコーヒーマシーン利用者様からの任意金額を全てご寄付 など

※ご寄付は、フェアトレードの普及啓発・アドボカシー活動に活用させていただいています。

● ご寄付をいただいた企業・団体の皆さま (五十音順)

- ・小川珈琲株式会社
- ・千葉商科大学サービス創造学部コミュニティカフェ・プロジェクト
- ・デロイト トーマツ グループ
- ・日本生活協同組合連合会
- ・ヒューマン・アソシエイツ・ホールディングス株式会社
- ・三菱 UFJ 銀行

※ 5万円以上のご寄付をいただいた企業・団体を紹介



〈 プロボノ・現物寄付など 〉

● サポート事例

- ・プロジェクト推進のサポート
- ・企画ご提案
- ・SNS 広告の出稿／運用 など

● サポートいただいた企業の皆さま (五十音順)

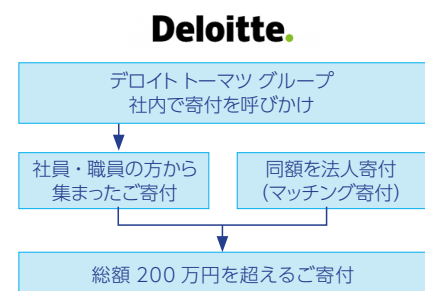
- ・株式会社イノベーションデザイン
- ・株式会社オウルズコンサルティンググループ
- ・デロイト トーマツ グループ
- ・博報堂 SDGs プロジェクト
- ・Facebook Japan 株式会社
- ・gooddo 株式会社
- ・Google LLC
- ・1% for the Planet

〈 ご支援方法・事例 〉

デロイト トーマツ グループ 様

社内での寄付の呼びかけとマッチング寄付により
大きなインパクトを実現

デロイト トーマツ グループ様では、12月の寄付月間に社内でも寄付を呼びかけ、集まった寄付と同額を法人としてマッチング寄付する企画を行っていらっしゃいます。2021年は寄付先の6団体のうちの一つにフェアトレード・ラベル・ジャパンを含めていただき、同社内で活動紹介をさせていただく等も含め、寄付の呼びかけをオンラインでご一緒させていただきました。その結果、216人の社員・職員の方からご寄付をいただき、法人としてのマッチング寄付とあわせて合計239.4万円ものご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。



寄付サポーターの募集



ご寄付は
こちらから



貧困がなくなり、
生産者が持続可能な生活を実現し、
自ら未来を切り開いていける
世界を目指して。



フェアトレード・ラベル・ジャパンの活動を応援いただき、
一緒にビジョン達成を目指してください
寄付サポーターを募集中です。

- ご寄付は、教材や広報物制作・イベントの開催など、主にフェアトレード普及啓発に使わせていただきます。より多く子ども達や大人にフェアトレードを知っていただくことで、フェアトレードの市場が広がり、多くの生産者や自然環境にインパクトをもたらすことが出来ます。
- 寄付サポーターの方にはフェアトレードに関する最新情報やイベントなどのお知らせをお送りさせていただきます。
- 当法人へのご寄付は、税制上の寄付金控除の対象になります。

◆ 主なご寄付のラインナップ (クレジットカード又は銀行振込)

個人 都度寄付プラン

3,000円 5,000円 10,000円
50,000円 100,000円

個人 継続寄付プラン

500円/月 1,000円/月 3,000円/月
3,000円/年 5,000円/年

法人 寄付プラン

[写真] カリブ海のウィンドワード諸島のバナナ農園の子ども達





Photo: Francis Kokoroko / Fairtrade / Fairpicture

Annual Report 2021 (2022年7月発行)



認定NPO法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町11-6
英守東京ビルディング 3階